

第2四半期決算説明会資料



株式会社 帝国電機製作所

2015年11月19日

(東証1部 6333)

<http://www.teikokudenki.co.jp/>

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。

しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しのみに全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわないようお願いいたします。

会社概要と沿革



商号	株式会社 帝国電機製作所
本社所在地	〒679-4395 兵庫県たつの市新宮町平野 60
敷地面積	42,023 m ²
設立年月	1939 年 9 月
資本金	3,118,118 千円(2015 年 9 月末)
発行済株式数	20,400 千株(2015 年 9 月末)
事業	電気機械器具の製造販売
決算期	3 月 31 日(年 1 回)
従業員数	1,256 人(連結)、334 人(単体) (2015 年 9 月末)
事業所数	3 工場、5 営業所、1 出張所、1 駐在員事務所
連結	子会社 15 社 (国内 5、海外 10)

社是

みんなで良くなろう

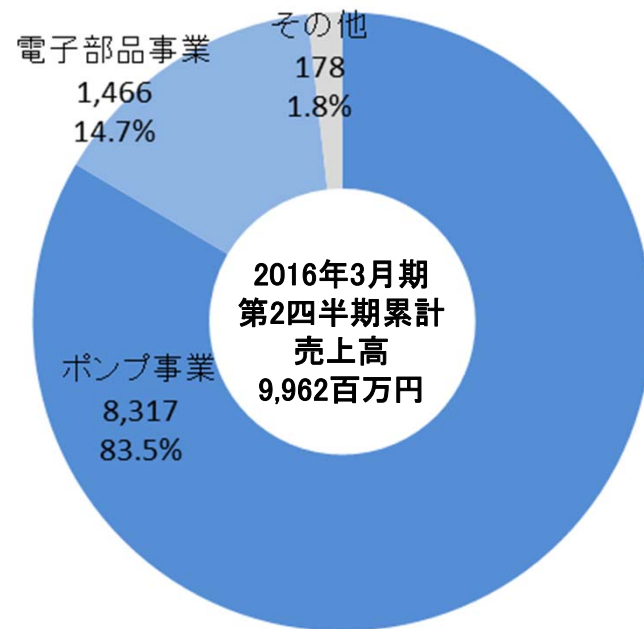
誠実に事に当たろう

積極的にやろう

1939 年 9 月	鉄道保安装置一式製作販売及び一般電気機械製作販売を主たる目的として大阪市北区曾根崎新地に株式会社帝国電機製作所を設立
1944 年 2 月	業務の拡張と戦時疎開のために兵庫県揖保郡新宮町に新宮工場を竣工
1960 年 4 月	自社製品キャンドモータポンプ初号機完成
1991 年 11 月	米国デラウェア州ドーバー市に子会社 TEIKOKU USA INC. を設立
1994 年 12 月	中国遼寧省大連市に大連キャンドモータポンプ廠との合併会社大連帝国キャンドモータポンプ有限公司を設立
1999 年 1 月	台湾台北市に子会社台湾帝国ポンプ有限公司を設立
1999 年 3 月	シンガポールに子会社 TEIKOKU SOUTH ASIA PTE LTD.を設立
1999 年 5 月	大阪証券取引所市場第二部に上場
2001 年 11 月	大連帝国キャンドモータポンプ有限公司を完全子会社化
2002 年 8 月	ドイツ デュセルドルフ市に TEIKOKU ELECTRIC GmbH を設立
2003 年 2 月	子会社 TEIKOKU USA INC.がアメリカのケミポンプ事業部(キャンドモータポンプ発祥会社)買収
2005 年 2 月	東京証券取引所市場第二部に上場
2005 年 10 月	子会社 TEIKOKU KOREA CO.,LTD を設立
2006 年 9 月	東京証券取引所市場第一部に上場
2007 年 2 月	大阪証券取引所市場第一部に上場
2008 年 10 月	帝国電機技術開発センター及び上月電装新工場竣工
2008 年 10 月	大連帝国キャンドモータポンプ有限公司工場増設
2009 年 2 月	江蘇省無錫市に無錫大帝キャンドモータポンプ修理有限公司設立
2009 年 6 月	山東省済南市に済南大帝キャンドモータポンプ修理有限公司設立
2010 年 4 月	平福電機新工場竣工
2010 年 5 月	TEIKOKU USA INC.が TEXAS PROCESS EQUIPMENT COMPANY 社のキャンドモータポンプ修理サービス事業を取得
2012 年 3 月	大連帝国キャンドモータポンプ有限公司が台湾帝国ポンプ有限公司を子会社化(当社の孫会社化)
2012 年 12 月	バーレーン駐在員事務所設立
2013 年 8 月	帝国電機光都工場竣工
2013 年 12 月	四川省成都市に成都大帝キャンドモータポンプ修理有限公司設立
2015 年 5 月	韓国に Teikoku Korea Technical Service Co., Ltd.設立

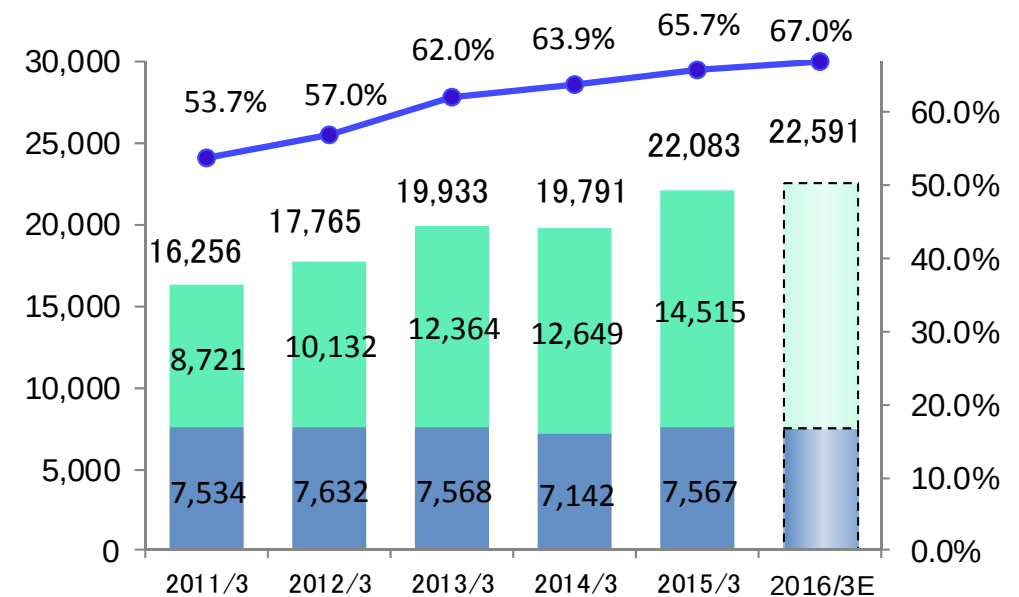
当社事業の特色

事業部門別売上比率



- 売上高の84%は、「キャンドモータポンプ」を主軸とする「ポンプ事業」
- 「ポンプ事業」の内、約75%前後が「ケミカル用」

国内外売上高比率の推移



■ 海外売上高 ■ 国内売上高 ● 海外売上高比率

- 海外売上高比率は上昇傾向
- 売上高比率は既に国内外逆転



株式会社 帝国電機製作所

決算説明

常務取締役 総務本部長
中村 嘉治

2016年3月期第2四半期累計 連結損益計算書の概要

単位 百万円	第2四半期累計	前年同期比 %
売上高	9,962	+2.0
売上原価	6,213	+6.3
売上総利益	3,749	▲4.3
販売費・一般管理費	2,766	+0.3
営業利益	982	▲15.2
営業外損益	80	
経常利益	1,062	▲23.1
特別損益	▲19	
税引前利益	1,042	▲24.6
法人税等	370	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	671	▲24.5

■ 前年対比、増収減益

■ 売上： 国内については設備投資の緩やかな回復に伴い増加したものの、海外については、中国経済の減速の影響等により低調に推移

■ 利益： 主に中国市場での粗利率の悪化や、新基幹システムに関する減価償却費の増加等による販売費及び一般管理費の増加、為替差益の減少等により低調に推移

[評価為替：1US\$=122.44円、1元=19.72円、1EUR=137.15円、1KRW=0.11円]

今期計画(連結ベース)

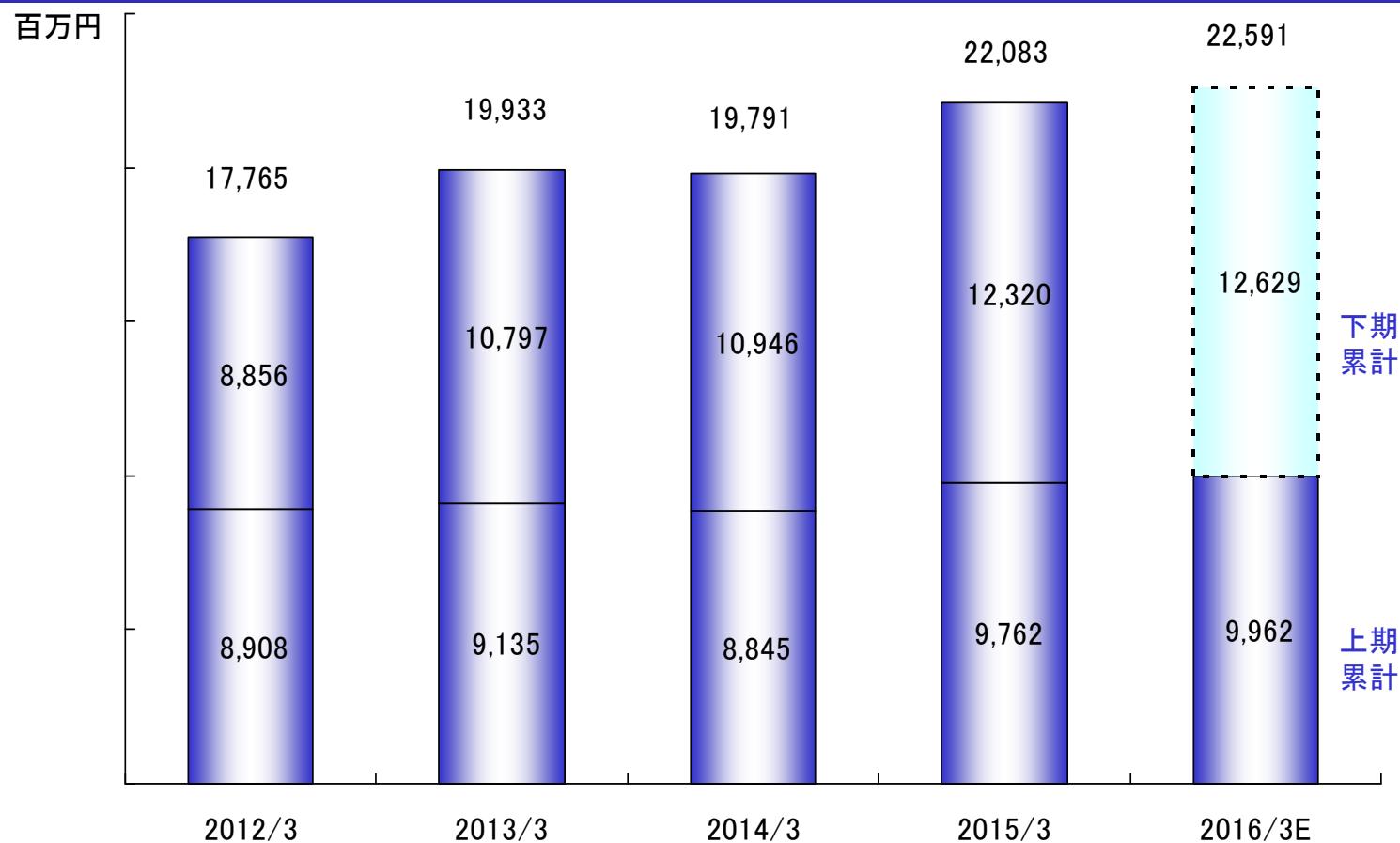
単位 百万円	通期	前期比 増減%
売上高	22,591	+2.3
売上原価	13,900	+2.5
売上総利益	8,691	+2.0
販売費・一般管理費	6,377	+5.0
営業利益	2,314	▲5.7
経常利益	2,379	▲21.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,621	▲18.6

- ポンプ事業では中国の市況悪化の影響が懸念されるが、北米及び国内は堅調に推移しているため計画の見直しは実施せず
- 人件費及び販売手数料、輸送費等の増加
- 次期基幹システムの稼働により減価償却費が増加

[計画為替レート：1US\$=115.0円、1元=19.0円、1EUR=130.0円、1KRW=0.1円]

上記の予想数値は、本資料の作成日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。実際の業績等は、経済情勢の変化等の不確定要因により、記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

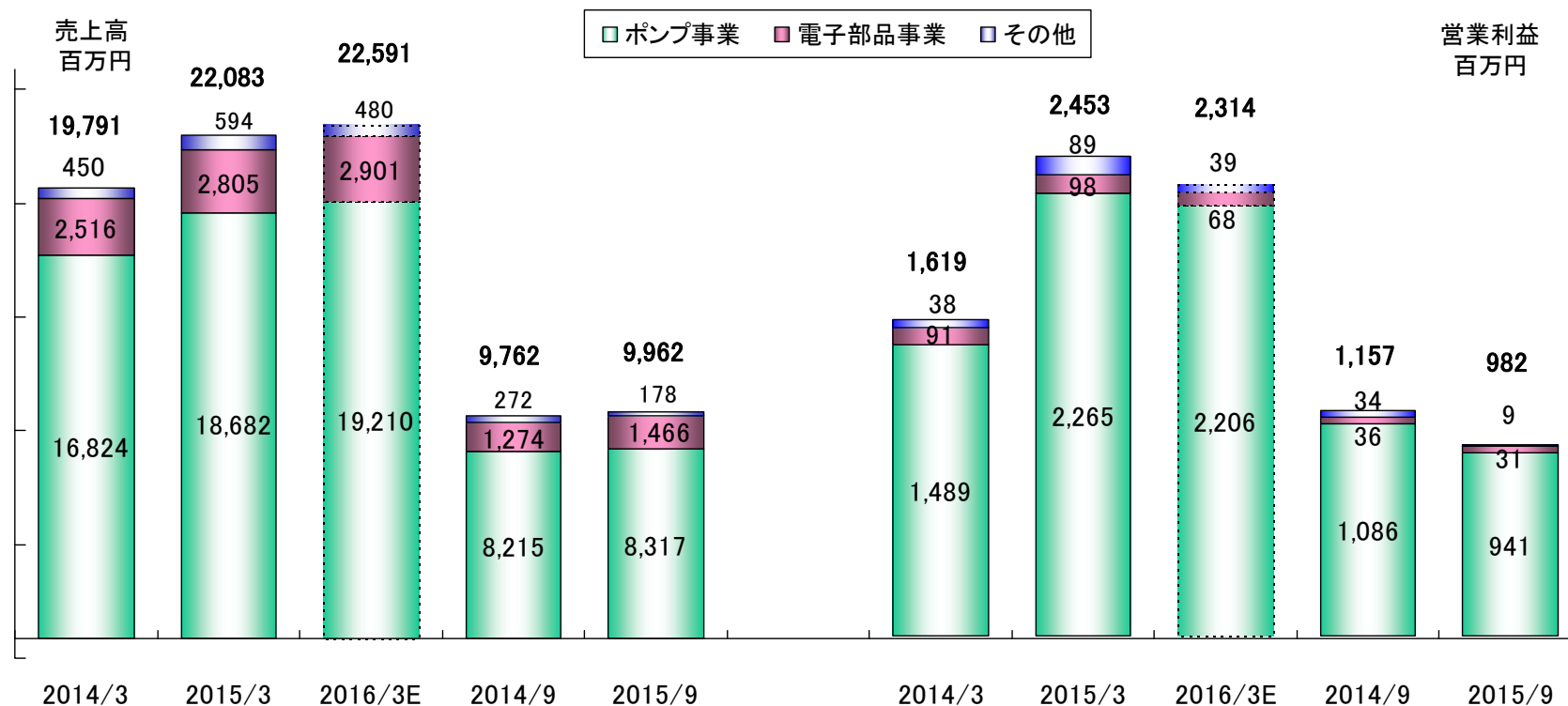
売上高の推移



主力である「ポンプ事業」について

- 国内については設備投資の緩やかな回復に伴い増加したものの、海外については中国経済の減速等の影響により低調に推移
- 今後は中国の市況悪化の影響が懸念されるが、北米及び国内での設備投資については堅調な推移を予想する（主要取引先は石油化学業界、冷凍機・空調機器業界及び電力業界等）

事業の種類別セグメント



・ ポンプ事業

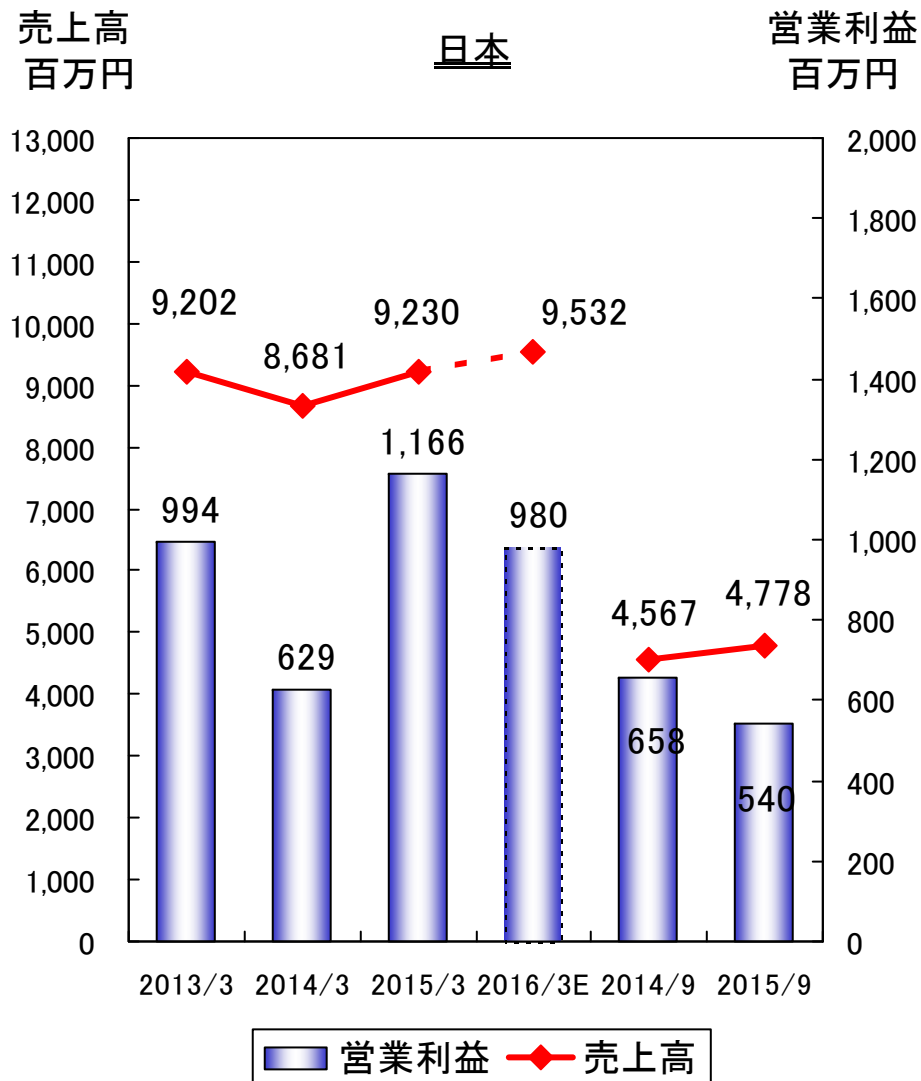
- 内需は設備投資の緩やかな回復に伴い堅調に推移
- 外需については中国の市況悪化の影響が懸念されるものの、堅調な北米地域での伸びに加えて、中期的には新興国を中心としたインフラ整備に関わる需要に期待
- 調達先の海外調達の拡充を含む多様化・まとめ発注や設計・生産の効率化により原価低減を行う

・ 電子部品事業

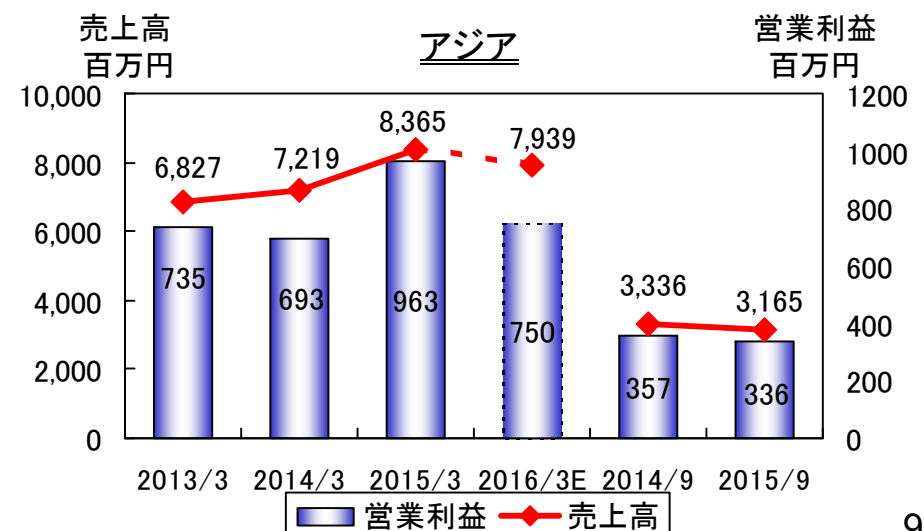
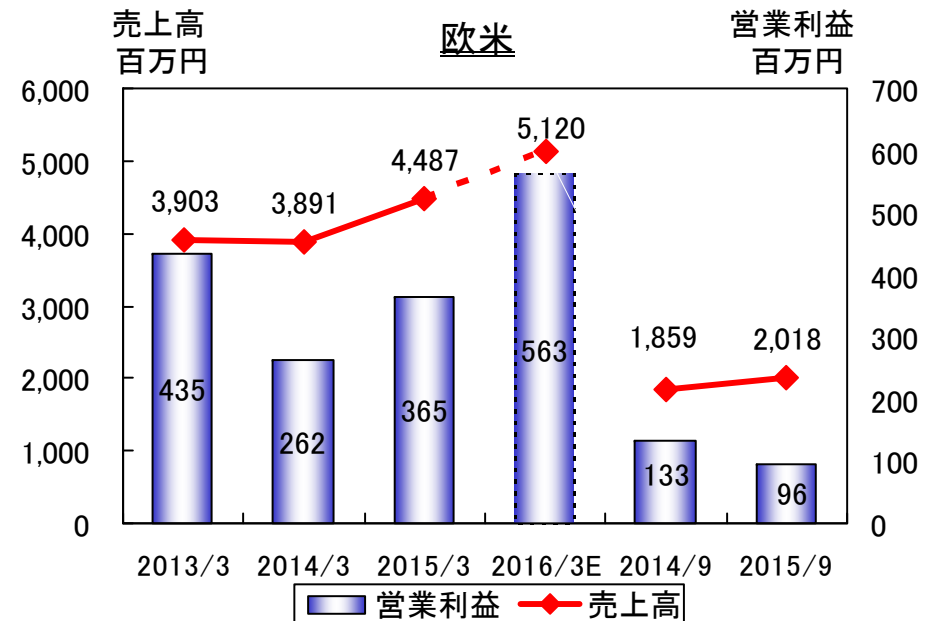
- 自動車用電装品は、受注先企業からの仕事量の増加により堅調に推移したが、今後は新興国の景気減速等による影響が懸念される

注) 予想数字は要注意事項ですので、取り扱いには十分ご注意ください

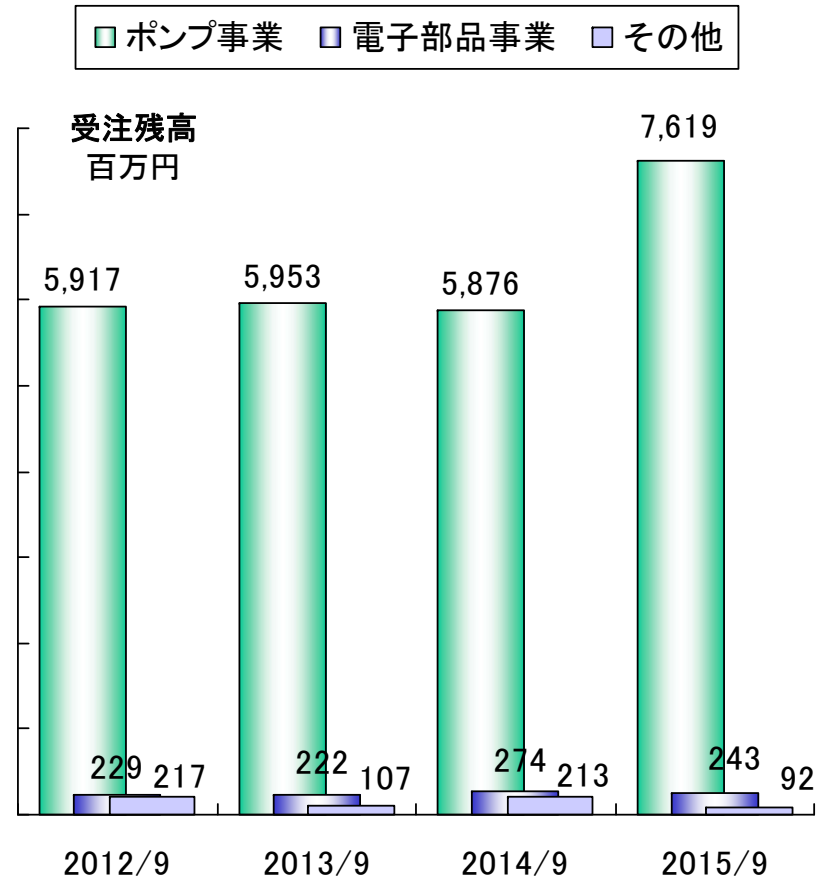
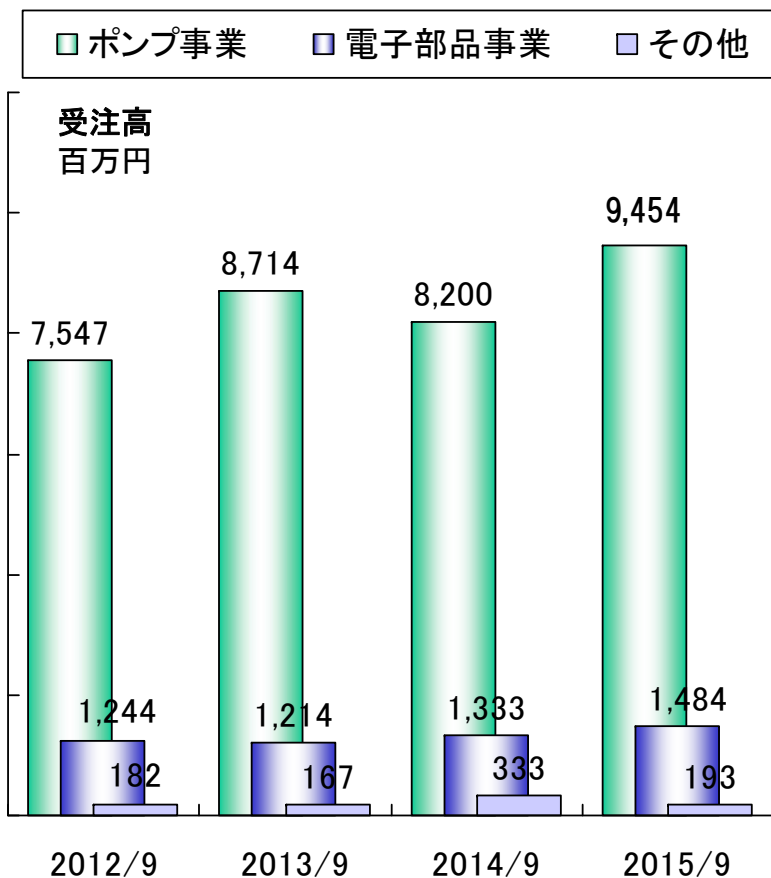
所在地別セグメント



注) 予想数字は要注意事項ですので、取り扱いには十分ご注意ください

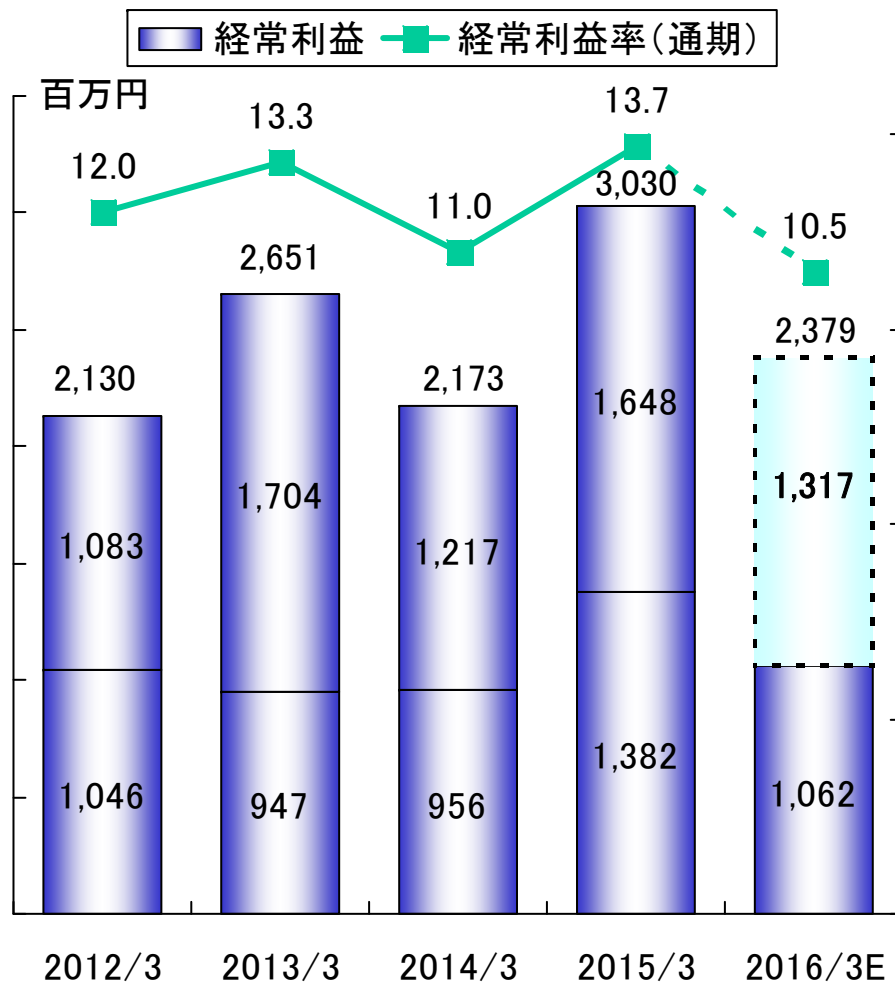


事業の種類別受注と受注残高



- ・ **ポンプ事業**
 - 受注は国内・北米などを中心として堅調に推移
 - 北米においては化学用ポンプ、冷凍機用ポンプとも堅調に推移しているが、中国においては景況感の悪化に伴い、化学用ポンプ等を中心として厳しい受注環境が続いている
- ・ **電子部品事業**
 - 自動車用電装品は、受注先企業からの仕事量の増加により堅調に推移したが、今後は新興国の景気減速等による影響が懸念される

経常利益



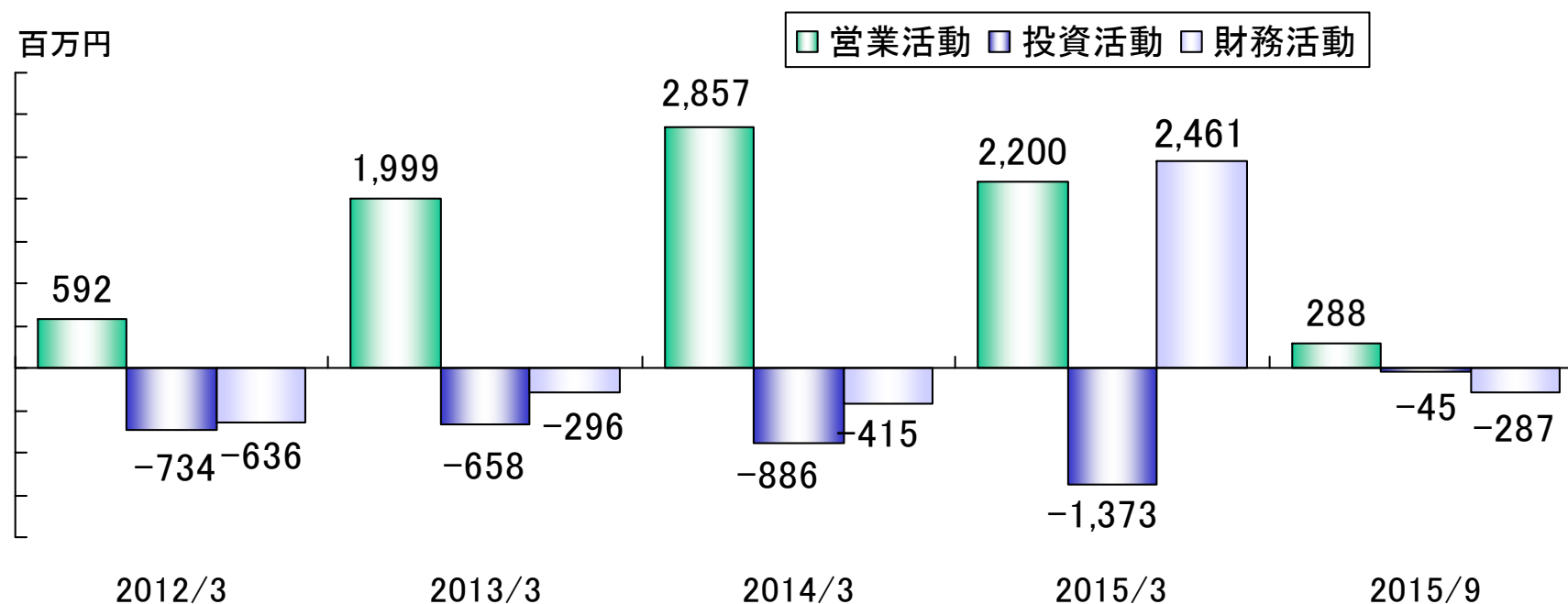
増減要因(前年同期比)

経常利益	▲319百万円
販管費	+8百万円
（うち人件費）	▲210百万円
営業外収益	▲160百万円
営業外費用	▲15百万円
親会社	▲183百万円
国内子会社	▲66百万円
海外子会社	▲99百万円

2016年3月期第2四半期 連結貸借対照表の概要

単位 百万円	2016年3月期 第2四半期(実績)	前期末 増減		2016年3月期 第2四半期(実績)	前期末 増減
流動資産	21,887	▲334	流動負債	5,552	▲756
現預金	10,061	871	支払手形・買掛金	2,387	154
受取手形・売掛金	6,920	▲17	短期借入金	573	▲53
製品	1,036	▲46	その他	2,592	▲857
仕掛品	2,259	361	固定負債	1,651	▲13
原材料及び貯蔵品	1,109	109	退職給付に係る負債	948	15
その他	500	▲1,613	その他	703	▲28
固定資産	8,958	▲11			
有形固定資産	6,596	170	純資産	23,642	423
無形固定資産	501	0	株主資本	22,210	529
投資その他の資産	1,860	▲181	その他の包括利益累計額	1,432	▲105
資産合計	30,846	▲346	負債純資産合計	30,846	▲346

キャッシュフロー



	2012年3月 通期実績	2013年3月 通期実績	2014年3月 通期実績	2015年3月 通期実績	2015年9月 第2四半期実績
営業活動CF	592	1,999	2,857	2,200	288
投資活動CF	▲734	▲658	▲886	▲1,373	▲45
フリーCF	▲141	1,340	1,971	827	242
財務活動CF	▲636	▲296	▲415	2,461	▲287
現金及び同等物の期末残高	2,640	3,939	5,924	9,590	9,590

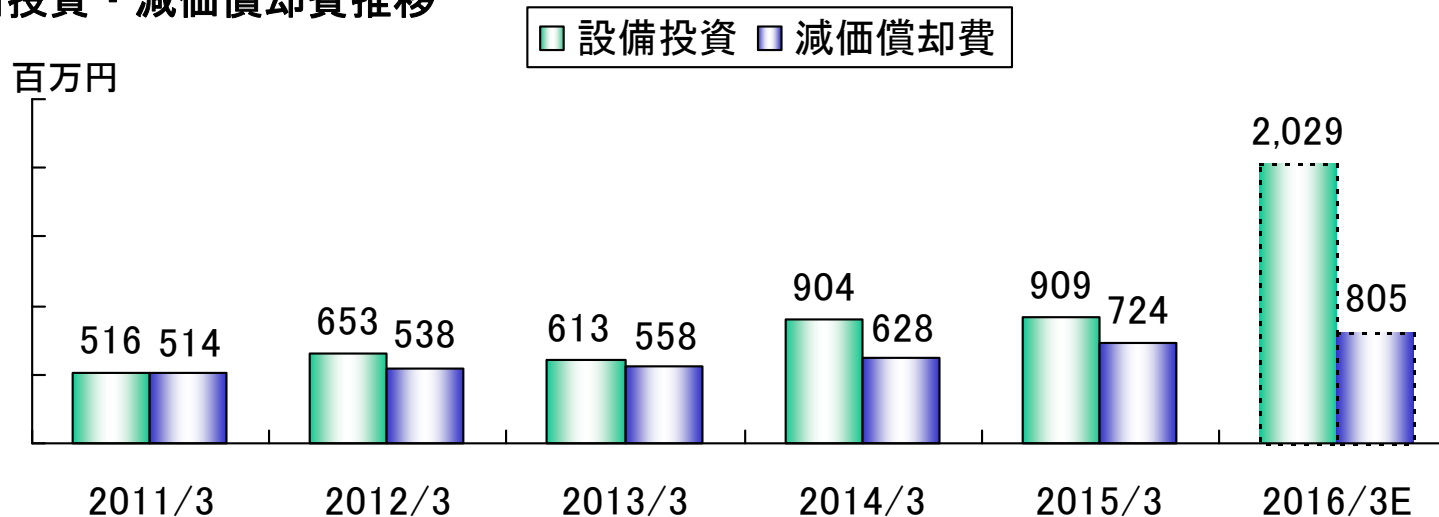
経営指標等推移

◆経営指標推移

	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期
営業利益率	10.1%	12.0%	10.8%	8.2%	11.1%
ROE	5.9%	9.1%	12.3%	8.3%	9.7%
ROA	8.3%	10.9%	12.4%	9.1%	10.7%
自己資本比率	70.3%	68.7%	70.0%	70.5%	74.4%
配当性向	24.4%	16.3%	12.0%	15.6%	13.0%

※ ROE: 自己資本当期純利益率 ROA: 総資産経常利益率

◆設備投資・減価償却費推移



利益配分に関する基本方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題のひとつと考えており、安定した配当を継続的に行うことを基本方針としております。

また一方、急速な技術革新と顧客ニーズに応えるための研究・新製品開発及び生産設備等事業拡大・競争力強化のために積極的な先行投資を行うことも必要不可欠であり、その結果としての財務状況、利益水準及び配当性向等を総合的に勘案した成果配分に努めてまいります。

配当金の推移

	1株当たり中間配当	1株当たり期末配当	1株当たり年間配当
2012年3月期	10円00銭	12円00銭	22円00銭
2013年3月期	12円00銭	12円00銭	24円00銭
2014年3月期	12円00銭	12円00銭	24円00銭
2015年3月期	12円00銭	7円00銭	19円00銭
2016年3月期	7円00銭	7円00銭 (予定)	14円00銭 (予定)

注) 当社は、2014年10月1日を効力発生日として、1株につき2株の割合で株式分割を実施したため、2015年3月期の期末の1株当たり配当金(予定)については、株式分割を考慮した金額を記載しております。なお、当該株式分割を考慮しない場合の2015年3月期の期末の1株当たり配当金(予定)は、14円となります。



株式会社 帝国電機製作所

当社の現状と今後の展望

代表取締役社長
宮 地 國 雄

中期的な経営戦略と目標

中期的な経営戦略

- 連結経営強化の観点から子会社を含めた事業の効率向上と一層の連携強化に努める
- 完全無漏洩構造の「キャンドモータポンプ」事業をコアとし、技術開発型企业グループとして、「よりよい製品をより安く」「お客様に信頼される製品造り」「地球環境に優しい製品造り」をベースに事業領域を拡大
- 激変する事業環境に対処するため、また景気変動に強い体質づくりを目指し、成長を図る施策を展開
- 本社工場の建て替え
工場面積を現行の1.3倍の約19,800平方メートルに拡大すると共に、生産効率の高いラインを構築し、中・大型ポンプを中心として生産能力を約1.7倍に強化する
(総投資額 約36億円：2016年3月第一期工事竣工、2017年3月第二期工事竣工予定)

経営目標

- 景気動向による売上高に左右されることなく、適正利益を生み出せる強靱な経営体質を目指す
 - ・ 海外売上高比率68%以上 (2015年9月末 58.2%)
 - ・ 売上高営業利益率12%以上 (2015年9月末 9.9%)

当社の事業環境について

国内・・・設備投資の回復基調継続を期待

北米・・・2017年以降に、シェールガスに関連した大規模化学プラントが立ち上がってくる見込み
石油化学業界の設備投資回復に加え、長期的にはシェールガスに伴うエチレンプラント
及び下流品としての化学品基礎原料のプラントなどにも大きな期待が持てる。
(新設備導入の機会となり、環境面からもキャンドモータポンプが見直される可能性が大
きいと予想)

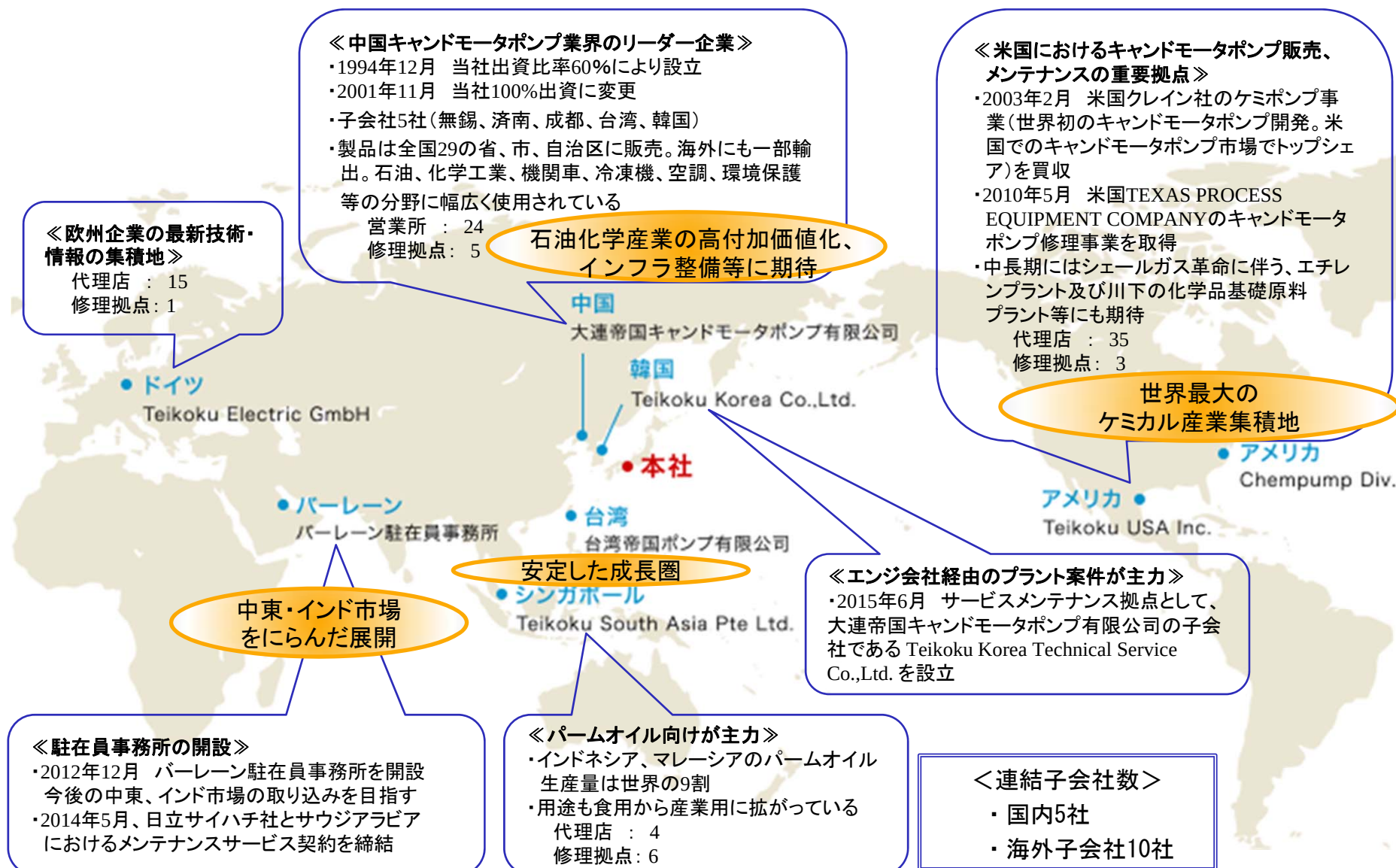
中国・・・足元では景況感の悪化が目立つものの、中長期的にはインフラ整備、高速鉄道路線網
の拡大に加え、石油化学産業の品質向上、高付加価値化への取り組みによる、より
高機能なポンプの需要増加(PM2.5に関連した脱硫プロセス強化含む)に期待

韓国・・・サービスメンテナンス拠点として、大連帝国キャンドモータポンプ有限公司の子会社で
ある Teikoku Korea Technical Service Co.,Ltd. を設立(2015年6月)

東南アジア・・・化学プラント、工場の増設ニーズは継続

中東及びインド・・・バーレーン駐在員事務所を通じ、情報収集を活発化
日立製作所のサウジアラビアの子会社である日立サイハチ社との間で、
サウジアラビアにおけるメンテナンスサービス契約を締結(2014年5月)

主要海外拠点と取り組みのご紹介

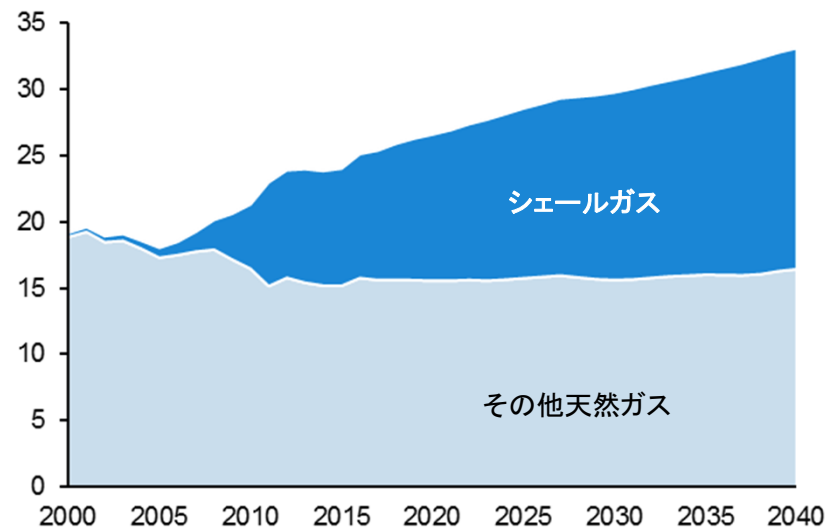


外部環境(米国市場)

米国における事業環境

米国内の天然ガス採掘に占めるシェールガスの割合

単位: 兆立方フィート

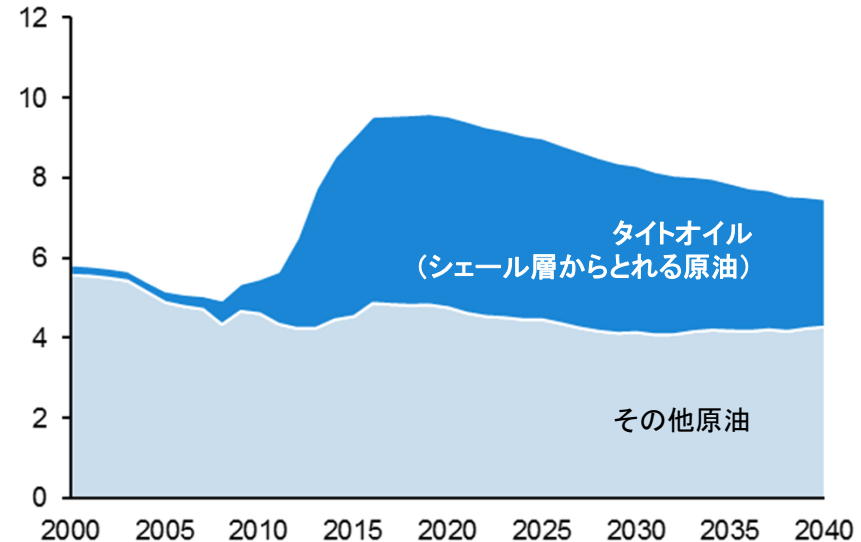


2011年までは実績値、2012年以降は予測値

出所: EIA Annual Energy Outlook 2013

米国内の原油採掘に占めるタイトオイルの割合

単位: 100万バレル/日



2012年までは実績値、2013年以降は予測値

出所: EIA Annual Energy Outlook 2014 Early Release

ビジネスチャンスの拡大

- 在来型天然ガス生産量の減少下、シェールガスの継続的で大幅な増産により2035年までに5兆立方フィートの増加を予測
- 太陽光発電、バイオ燃料、原子力発電等の石油代替市場の拡大
- 高速鉄道建設などのインフラ整備事業の展開

- 旧来のメカニカルシールポンプ(通常型ポンプ。液漏れリスクあり)市場へ、キャンدمータポンプを投入
- 新型電動油ポンプ(変電所用)の受注獲得
- 冷凍設備用ポンプ・バイオ燃料市場でシェア拡大

外部環境(米国市場)

「シェールガス革命」は、北米での当社ビジネスを積極化させると期待

プラント建設に関わるビジネスの進捗(設計～建設～生産稼働)

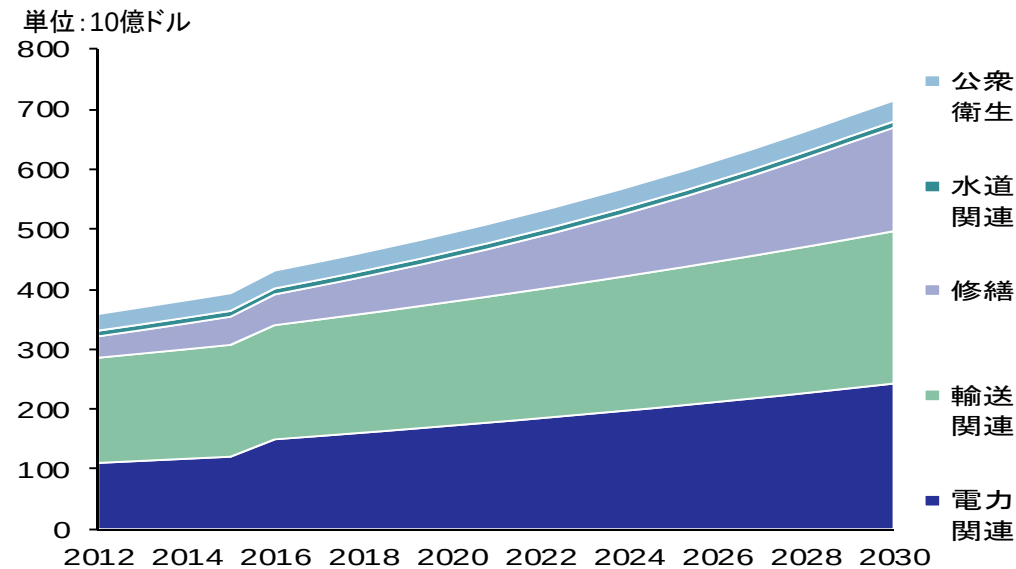
	Step 1	Step 2	Step 3
プラント・エンジニアリング	北米LNG基地の設計・建設などの受注		
鋼材・鋼管メーカー	鋼管などの需要		
建機メーカー	建築用機材の需要		
重電メーカー		ガスタービン、コンプレッサーなどの需要	
産業機械		建築機器、発電機などの需要	
当社			危険な液体に対応するポンプとして、「API685」完全準拠キャンドモータポンプの商機と認識
 株式会社 帝国電機製作所	営業力の強化、拠点整備		

※「API685」・・・米国石油協会が定める無漏洩ポンプの規格

インフラ投資拡大、化学産業の成長により、新興国でのビジネス機会拡大

新興国における年間インフラ投資額の予測

- 新興国における急速な都市化と人口急増により、電力・水道・道路・鉄道などのインフラ需要は拡大傾向



出所:世界銀行予測

- 当社の海外売上高比率は上昇傾向 (2004年3月期 35.4%⇒2015年9月末 58.2%)
- 中東・インド市場をにらんでバーレーン駐在員事務所を開設(2012年12月)
- 日立サイハチ社(株式会社日立製作所の子会社)とサウジアラビアにおけるメンテナンスサービス契約を締結(2014年5月)

中国における事業環境

化学プラント、環境対策

- 足元では景況感の悪化が目立つものの、中長期的には石油化学産業の品質向上、高付加価値化への取り組みが進み、より高機能なポンプの需要機会増加が見込まれる
- 石油精製の脱硫プロセスへのキャンドモータポンプの有効性は、「PM2.5」対策にも期待される
- 中国での「景気対策」として、インフラ投資の積み増しも期待される

鉄道路線網

- 中国国内の鉄道路線網整備の進展
 - 高速鉄道網の延伸計画 ⇒ 高速鉄道用ポンプ需要増加期待
 - シルクロード経済圏を構築するという「一帯一路」戦略の基幹を高速鉄道産業がささえる。
- 中国国務院の「国家新型都市化計画(2014-2020年)」※によれば、農村から都市部へ人口を移動させるため、輸送網や都市インフラの整備が進むと見込まれる
- 2020年までに、普通鉄道網が人口20万以上の都市を、高速鉄道網が人口50万以上の都市を、それぞれ全てカバーする見込み
- インドネシア高速鉄道受注など国外プロジェクトへの参画を加速(中央アジア・ロシア・アルゼンチンなど)

(※)中国国務院、2014年3月16日発表

事業の動向

主要製品など		今期予想	中期予想
ケミカル用	ケミカル機器用		
	LPG機器用		
	冷凍機・空調機器用		
ケミカル以外用	半導体機器用		
	電力関連機器用		
	定量注入機器		
自動車用電装品			
特殊機器	電磁石		
	昇降機		
健康食品			

ポンプ事業

- 内需は、企業設備投資の緩やかな回復に伴い需要が増えつつあり、外需においてもインフラ整備、化学プラントの増設等に関わる需要増を期待
- グローバルニーズに対応したポンプの開発を進める
- 国内外でのメンテナンス・サービス体制の拡充を図る

この資料に掲載されている業績見通し、その他今後の予測・戦略等に関わる情報は、本資料の作成時点において、当社が合理的に入手可能な情報に基づき、通常予測し得る範囲内で為した判断に基づくものです。

しかしながら現実には、通常予測し得ないような特別事情の発生または通常予測し得ないような結果の発生等により、本資料記載の業績見通しとは異なる結果を生じ得るリスクを含んでおります。

当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられるような情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料記載の業績見通しに全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、当資料を無断で複製、または転送等をおこなわれぬようお願いいたします。



TEIKOKU

株式会社 帝国電機製作所